

学校における防災

立地

大川小学校

- 河口に近い川に隣接
- 堤防から200メートルほどのところに校舎
- 川と反対側には裏山

越喜来小学校

- 河口に近い川に隣接
- 堤防から200メートルほどのところに校舎
- 川と反対側には裏山

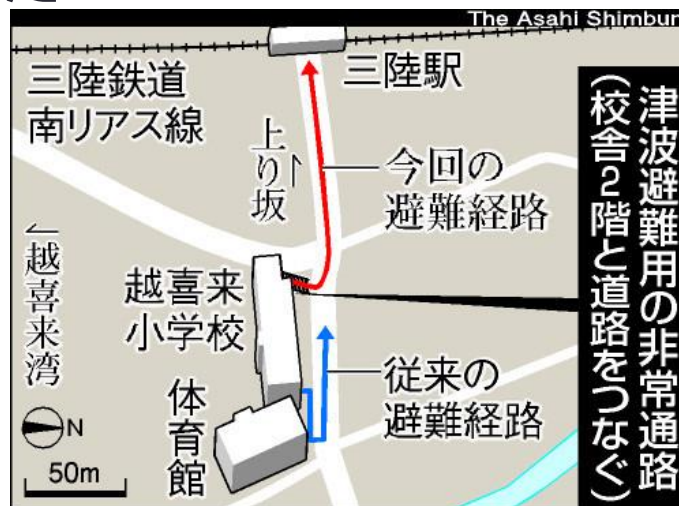
震災前の状況

大川小学校

- ハザードマップでは津波の想定区域ではない
- 避難通路が整備されていなかった
- 校庭が水に浸かりそうな場合の誘導先が決まっていなかった

越喜来小学校

- ハザードマップでは津波の想定区域内
- 避難経路がしっかりしていた



被害状況

大川小学校

- 2階建ての校舎の屋根付近まで津波にのまれる
- 108人の児童のうち70人死亡、4人行方不明
- 11人の教師のうち、助かったのは1人

越喜来小学校

- 3階建ての校舎の屋上一部を除いて水没
- 71人の児童は、全員近くの高台に避難

地震発生後の行動

大川小学校

- 校庭に避難
- 40分後、津波が迫る川の堤防脇にある高台の広場に向かう

越喜来小学校

- 弱い揺れの時に避難
- 地震発生から15分ほどで高台にある公民館まで全員移動



大川小学校と越喜来小学校の違い

- 学校の設備としては、階段や通路があったかなかったか
- 津波に備える意識の差

被災後の学校の取り組み(岩手県)

- すぐに避難経路を見直し
- 裏山を上りやすいように階段を整備
- 津波を想定した避難訓練

被災後の学校の取り組み(石川県)

- 輪島市の門前西小学校
年に1回以上津波からの避難訓練実施

最後に

- 多くの犠牲者を出した学校と、一人も出すことのなかった学校の違いを考えそれを今後にかしていくことが大切